平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月7日

上場会社名　株式会社 ヤマノホールディングス　　上場取引所　大
コード番号　7571　URL　http://www.yamano-hd.com/
代表者　(役職名) 代表取締役社長兼最高執行責任者　(氏名) 山野　義友
問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員管理本部長　(氏名) 金木　俊明　TEL 03-3376-7878

四半期報告書提出予定日　平成25年2月8日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	17,293	△2.8	367	16.8	333	30.0	320	131.5
24年3月期第3四半期	17,783	△9.1	314	136.3	256	136.8	138	―

(注)包括利益　25年3月期第3四半期　376百万円　(95.4%)　24年3月期第3四半期　192百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	8.96	―
24年3月期第3四半期	3.81	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	12,194	2,646	8.0	18.09
24年3月期	11,679	2,290	5.6	8.96

(参考) 自己資本　25年3月期第3四半期　978百万円　24年3月期　651百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	―	0.00	―	0.00	0.00
25年3月期	―	0.00	―		
25年3月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成25年 3月期の連結業績予想(平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,900	△0.5	540	11.0	500	19.1	400	99.2	11.15

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 ―社 (社名) 、 除外 1社 (社名) 株式会社アールエフシー
詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧下さい。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無
第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	34,497,058 株	24年3月期	34,497,058 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	15,966 株	24年3月期	15,966 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	34,481,092 株	24年3月期3Q	33,254,365 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧下さい。なお、1株当たり当期純利益の算定方法につきましては、当期純利益の予想値から普通株主に帰属しない金額(優先配当額)を控除して算出しております。

・決算補足説明資料及び動画による決算説明を、この決算発短信公表後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る１株当たりの配当金の内訳及び配当金総額は以下のとおりです。

Ａ種優先株式

	１株当たり配当金					配当金総額（合計）
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円
23年３月期	―	―	―	0 00	0 00	―
24年３月期	―	―	―	0 00	0 00	―
25年３月期（予想）	―	―	―	5,000,000 00	5,000,000 00	

（注）Ａ種優先株式の発行数は１株であります。また、平成24年３月期期末配当金は、当社定款に規程される分配可能額(5,000千円)に達しなかったため配当は行いませんが、当社定款に定められた配当額及び優先株式の累積条項に従い、前期までの累積配当額10,041千円は累積され、当期の配当額5,000千円と合わせて優先株主に対して配当を行う予定であります。

Ｂ種優先株式

	１株当たり配当金					配当金総額（合計）
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円
23年３月期	―	―	―	0 00	0 00	―
24年３月期	―	―	―	0 00	0 00	―
25年３月期（予想）	―	―	―	10,556,564 20	10,556,564 20	

（注）Ｂ種優先株式の発行数は１株であります。また、平成24年３月期期末配当金は、当社定款に規程される分配可能額(10,556千円)に達しなかったため配当は行いませんが、当社定款に定められた配当額及び優先株式の累積条項に従い、前期までの累積配当額21,199千円は累積され、当期の配当額10,556千円と合わせて優先株主に対して配当を行う予定であります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 ……2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 ……2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 ……4
（３）連結業績予想に関する定性的情報 ……4
２．サマリー情報(注記事項)に関する事項 ……5
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 ……5
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ……5
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 ……5
（４）追加情報 ……5
３．四半期連結財務諸表 ……6
（１）四半期連結貸借対照表 ……6
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ……8
（３）継続企業の前提に関する注記 ……10
（４）セグメント情報等 ……10
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 ……12

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績

当第３四半期連結累計期間における我が国経済は、復興需要や政策支援などにより、景気は一旦緩やかな回復基調となったものの、欧米経済の停滞や日本周辺国との緊張関係などにより後退局面を迎え、不安定な状況が続いております。

当社グループが属する業界におきましては、一部高額品の消費に回復傾向が見られたものの、先行き不透明感から個人消費の回復力は弱く、台風や残暑、降雪などの天候不順もあり、経営環境は厳しい状況が続いております。

そのような状況のもと、「第二創業」の３年目となる当期におきましては、従来の「ソフトと価値の提供」をテーマとした商品以外のサービス・満足の提供を目指した施策に加え、人財育成と採用を強化し、今後の出店・拡大に向けた体制の確立に努めてまいりました。

また、平成24年４月１日付で当社の和装事業を堀田丸正グループのＨＭリテーリングス株式会社に事業譲渡、平成24年10月１日付で宝飾事業である株式会社ヤマノジュエリーシステムズを当社が吸収合併、同じく平成24年10月1日付でその他の事業である株式会社ヤマノ1909セイビングが株式会社アールエフシーを吸収合併し、一層の事業効率化を推進しております。

店舗展開としては、美容事業において４月に１店舗、５月に２店舗、６月に１店舗のリニューアルを実施、スポーツ事業において４月に２店舗の移転リニューアル、９月に１店舗の出店を実施、和装事業において９月に１店舗の出店を実施、卸売事業において５月に１店舗の出店を実施、宝飾事業において８月に１店舗の出店を実施しております。

人財育成策としては、各事業において知識習得やサービス向上を目的とした各種研修を実施しております。また、美容事業、スポーツ事業、和装事業で新卒採用を実施している他、卸売事業においても新卒採用を再開いたしました。

当第３四半期連結累計期間における売上高は、卸売事業の取引先見直し、ＤＳＭ事業の店舗閉鎖・統合の影響等により、172億93百万円（前年同四半期比2.8％減）となりましたが、和装事業の売上高が堀田丸正株式会社とのシナジーにより前年同四半期を上回り、スポーツ事業のウインター商戦が好調に推移したことなどにより利益は改善し、営業利益は３億67百万円（前年同四半期比16.8％増）、経常利益は３億33百万円（前年同四半期比30.0％増）となり、法人税等還付税額等を計上したことにより四半期純利益は３億20百万円（前年同四半期比131.5％増）となりました。

セグメントの業績は、以下のとおりであります。

1)「美容事業」

美容事業につきましては、他社との差別化戦略として、ターゲットを明確化した店舗設計である「ファミリーサロン」「アンチエイジングサロン」への店舗改修を実施、オーガニックヘッドスパ「山野式ヘッドスパ」の導入店舗拡大をすすめております。

当第３四半期連結累計期間においては、人財育成強化策として技術マニュアルを整備し、新教育スケジュールの運用をスタートいたしました。また、「ファミリーサロン」へのリニューアルを１店舗、「アンチエイジングサロン」へのリニューアルを３店舗実施し、平成24年12月31日現在の店舗数は、直営119店舗、ＦＣ５店舗となっております。

差別化メニューとして打ち出している「山野式ヘッドスパ」は、導入店を前期末比５店舗増加した42店舗に導入するとともに、導入店のヘッドスパ技術者を増強しております。また、９月よりＴポイントサービスを導入し、顧客の利便性向上に努めております。

美容事業の売上高は、家庭用ヘアケア用品の品質向上・低価格化の影響や、台風や猛暑、降雪による客数減により21億65百万円（前年同四半期比3.5％減）となり、セグメント利益は１億39百万円（前年同四半期比20.1％減）となりました。

2) 「スポーツ事業」

スポーツ事業につきましては、「ソフトと価値の提供」として①専門店ならではの提案力強化、②体験サービスイベントの開催、③メンテナンスサービスの商品化、④ＷＥＢ通販の拡大を行っております。

当第３四半期連結累計期間においては、２店舗の移転リニューアル、１店舗の出店を実施し、平成24年12月31日現在の店舗数は19店舗となっております。

ウインター商戦においては、エディオンカードの優待加盟店参加、リクルートライフスタイル主催「雪マジ19」タイアップ企画など、他社とのコラボによる販促強化に努め、中価格帯商品を中心に売上が伸長いたしました。また、ワックスマシーンを新規投入し、メンテナンス受注額は10月～12月で前年109.9%となっております。

人財育成強化策としては、ダイビング研修や登山研修、商品研修などを実施し、提案力の向上に努めております。

スポーツ事業の売上高は、夏季催事の減少等があったものの、ウインター商戦が好調に推移した結果、31億94百万円（前年同四半期比1.7%減）となり、催事費用の減少等により、セグメント利益は57百万円（前年同四半期比100.5%増）となりました。

3) 「ＤＳＭ事業」

ＤＳＭ事業につきましては、ミシン点検サービスや布団の丸洗いクリーニングなどのサービス機能を拡充し、催事集客強化による販売施策を行っております。

ＤＳＭ事業の平成24年12月31日現在の事業所数は83店舗となっております。

当第３四半期連結累計期間においては、通常の大型催事を開催するほか、大型ショッピングセンター等の撤退により買い物の場が減少してしまった消費者をターゲットに、地方の各ショップにて洋装品を中心にしたトータルファッションのミニ展示会を実施しております。

また、事業所の統廃合を要因とした販売員減少に対応するため、販売員増員プロジェクトを立ち上げ、紹介キャンペーンなどを実施しております。

ＤＳＭ事業の売上高は、店舗閉鎖・統合や化粧品事業撤退等の影響により、25億89百万円（前年同四半期比4.7%減）となりましたが、賃借料の削減等により、セグメント利益は１億１百万円（前年同四半期比47.0%増）となりました。

4) 「和装事業」

和装事業につきましては、①店頭における着方教室「前楽結び着方教室」、②きものパーティなど「着る機会の提供」、③お手入れサービス「きものクリニック」の３施策を柱として、顧客の活性化、定着化に努めております。

当第３四半期連結累計期間においては、９月に１店舗の出店を実施し、平成24年12月31日現在の店舗数は39店舗となっております。

店頭販売の活性化と効率化を図るべく、店頭催事の内容を統一した催事を引続き実施しております。また、消費者向けのサイトを新しくオープンし、サービス向上に努めております。

この結果、堀田丸正株式会社とのシナジーもあり和装事業の売上高は22億44百万円（前年同四半期比9.2%増）となり、セグメント利益は92百万円（前年同四半期比488.5%増）となりました。

5) 「卸売事業」

卸売事業につきましては、「卸から顧客創造」戦略として、和装部門の売場コーナー化の推進、洋装事業部門の拡大に向けた施策を実施しております。

当第３四半期連結累計期間においては堀田丸正洋装事業部門の直営店を１店舗出店しており、平成24年12月31日現在の卸売事業の店舗数は、堀田丸正の洋装事業直営店が13店舗、タケオニシダ・ジャパンの直営店が19店舗となっております。

卸売事業の売上高は、取引先量販店の統合などにより、57億10百万円（前年同四半期比4.5%減）となり、セグメント利益は53百万円（前年同四半期比15.6%減）となりました。

6) 「宝飾事業」

宝飾事業につきましては、店外大型催事への参加や店頭催事の絞込みなど事業効率の向上に努めてまいりました。

当第３四半期連結累計期間においては、８月に１店舗の出店を実施しており、平成24年12月31日現在において30店舗となっております。

宝飾事業の売上高は、店外大型催事の参加店増などにより売上高の確保に努めた結果、８億95百万円（前年同四半期比3.2%増）となりましたが、高額商品販売が伸び悩んだ影響等により、セグメント利益は１百万円（前年同四半期比95.8%減）となりました。

7) 「その他の事業」

その他の事業の事業内容は、主に堀田（上海）貿易有限公司の意匠撚糸の販売、かねもり事業部の代理店を通じた呉服等を中心とした催事販売、RC卸事業部の健康器具卸売、株式会社ヤマノセイビングの前払式特定取引業による手数料収益であります。

なお、株式会社アールエフシーは、平成24年10月１日付で株式会社ヤマノ1909セイビングを存続会社とする吸収合併により解散し、同社の商号を同日付で株式会社ヤマノセイビングに変更しております。

その他の事業の売上高は４億92百万円（前年同四半期比26.0%減）となり、セグメント損失23百万円（前年同四半期はセグメント損失９百万円）となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第３四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ５億15百円増加し121億94百万円となりました。これは、主に流動資産において現金及び預金が１億36百万円増加、商品及び製品が３億５百万円増加し、そして、固定資産においてはのれんが２億４百万円増加し、敷金及び保証金が56百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比べ１億60百万円増加し95億48百万円となりました。これは、主に支払手形及び買掛金が５億71百万円増加、長期借入金が95百万円増加し、未払金が２億６百万円減少、１年内償還予定の社債が１億11百万円減少、前受金が85百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ３億55百万円増加し26億46百万円となりました。これは、主に当第３四半期連結累計期間の四半期純利益計上による利益剰余金の増加３億20百万円によるものであります。なお、平成24年６月28日開催の定時株主総会の決議に基づき平成24年８月１日付で減資を実施したことにより、資本金が13億47百万円及び資本剰余金が18億70百万円各々減少し、利益剰余金が32億17百万円増加しております。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成25年３月期の業績予想につきましては、前回（平成24年11月７日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表しております。）の内容から変更はありません。

今後、業績予想に変更の必要が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる結果になる可能性があります。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

（特定子会社の異動）

当社の連結子会社でありました株式会社アールエフシーは、平成24年10月１日付で当社の連結子会社である株式会社ヤマノ1909セイビングを存続会社とする吸収合併により消滅したため、第３四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。

なお、株式会社ヤマノ1909セイビングの商号を平成24年10月１日付で株式会社ヤマノセイビングに変更しております。

（連結の範囲の重要な変更）

平成24年10月１日付で当社を存続会社とし、株式会社ヤマノジュエリーシステムズを消滅会社とする吸収合併を行ったため、同社につきましては、当第３四半期連結会計期間において連結の範囲から除いております。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第１四半期連結会計期間より、平成24年４月１日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第３四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

（４）追加情報

（連結子会社の事業年度等に関する事項の変更）

従来、連結子会社のうち決算日が２月末日であった株式会社アールエフシーについては、連結決算日との差異が１ヶ月であったため当該連結子会社の決算日の財務諸表に基づき連結財務諸表を作成し、連結決算日との間に生じた重要な取引については必要な調整を行っておりましたが、平成24年10月１日付で、株式会社アールエフシーは、株式会社ヤマノ1909セイビングに吸収合併され消滅会社となるため、四半期連結損益計算書において平成24年３月１日から平成24年９月30日の７ヶ月分を反映しております。

４．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,279,607	2,415,668
受取手形及び売掛金	2,819,446	2,835,153
商品及び製品	2,783,804	3,088,854
仕掛品	25,312	16,428
原材料及び貯蔵品	67,713	83,076
その他	285,565	275,921
貸倒引当金	△75,644	△89,613
流動資産合計	8,185,805	8,625,489
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,862,708	1,775,653
減価償却累計額	△1,201,475	△1,155,179
建物及び構築物（純額）	661,233	620,473
機械装置及び運搬具	33,086	32,720
減価償却累計額	△32,030	△31,625
機械装置及び運搬具（純額）	1,056	1,094
工具、器具及び備品	644,170	632,535
減価償却累計額	△596,156	△581,586
工具、器具及び備品（純額）	48,014	50,949
土地	862,234	831,413
リース資産	23,195	26,707
減価償却累計額	△6,187	△8,038
リース資産（純額）	17,008	18,668
有形固定資産合計	1,589,547	1,522,599
無形固定資産		
のれん	－	204,400
その他	66,777	53,170
無形固定資産合計	66,777	257,570
投資その他の資産		
投資有価証券	119,310	120,097
長期貸付金	57,696	48,475
敷金及び保証金	1,535,241	1,478,859
その他	842,671	468,371
貸倒引当金	△717,982	△326,593
投資その他の資産合計	1,836,937	1,789,210
固定資産合計	3,493,262	3,569,380
資産合計	11,679,067	12,194,869

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年３月31日)	当第３四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,687,538	4,259,483
短期借入金	2,107,702	2,094,548
1年内返済予定の長期借入金	98,724	116,124
1年内償還予定の社債	111,250	－
未払金	845,096	638,542
前受金	1,026,979	941,892
未払法人税等	66,835	96,768
賞与引当金	30,300	13,961
返品調整引当金	20,714	12,855
ポイント引当金	68,180	57,614
株主優待引当金	1,446	1,446
その他	698,695	618,439
流動負債合計	8,763,462	8,851,676
固定負債		
長期借入金	84,004	179,770
長期未払金	296,025	268,577
繰延税金負債	2,710	4,088
資産除去債務	175,534	171,711
負ののれん	14,479	8,556
その他	52,484	64,375
固定負債合計	625,237	697,079
負債合計	9,388,699	9,548,756
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,602,921	255,565
資本剰余金	2,027,372	156,825
利益剰余金	△2,915,108	623,395
自己株式	△3,019	△3,019
株主資本合計	712,167	1,032,767
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△718	1,151
為替換算調整勘定	△60,085	△55,897
その他の包括利益累計額合計	△60,804	△54,746
少数株主持分	1,639,004	1,668,092
純資産合計	2,290,367	2,646,113
負債純資産合計	11,679,067	12,194,869

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年12月31日）
売上高	17,783,166	17,293,968
売上原価	10,641,233	10,323,197
売上総利益	7,141,933	6,970,770
販売費及び一般管理費	6,827,568	6,603,456
営業利益	314,364	367,314
営業外収益		
受取利息	4,848	5,102
受取地代家賃	14,325	14,768
協賛金収入	10,282	8,041
負ののれん償却額	10,559	5,983
その他	43,884	48,459
営業外収益合計	83,899	82,356
営業外費用		
支払利息	94,579	71,227
手形売却損	856	916
貸倒引当金繰入額	－	23,076
その他	46,282	20,983
営業外費用合計	141,717	116,204
経常利益	256,546	333,466
特別利益		
固定資産売却益	5,961	135
投資有価証券売却益	－	999
関係会社株式売却益	－	21,700
貸倒引当金戻入額	－	61,105
その他	1,024	10,781
特別利益合計	6,986	94,721
特別損失		
固定資産売却損	2	1,547
固定資産除却損	7,549	9,195
減損損失	741	8,083
投資有価証券評価損	2,581	4,402
店舗閉鎖損失	7,915	9,128
事務所移転費用	10,819	－
アドバイザリー手数料	－	23,057
その他	11,574	22,695
特別損失合計	41,183	78,109
税金等調整前四半期純利益	222,349	350,078
法人税、住民税及び事業税	48,784	94,882
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	－	△113,738
法人税等合計	48,784	△18,855
少数株主損益調整前四半期純利益	173,565	368,934
少数株主利益	35,060	48,333
四半期純利益	138,504	320,600

四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益	173,565	368,934
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,157	3,089
為替換算調整勘定	12,794	4,199
その他の包括利益合計	18,951	7,289
四半期包括利益	192,516	376,223
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	156,157	325,954
少数株主に係る四半期包括利益	36,359	50,268

（3）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（4）セグメント情報等

Ⅰ 前第３四半期連結累計期間(自 平成23年４月１日 至 平成23年12月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	美容	スポーツ	ＤＳＭ	和装	卸売
売上高					
外部顧客への売上高	2,243,893	3,251,137	2,717,827	2,055,596	5,981,547
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	96,108
計	2,243,893	3,251,137	2,717,827	2,055,595	6,077,656
セグメント利益又は損失(△)	174,789	28,576	69,157	15,785	63,089

	報告セグメント		その他(注１)	合計	調整額(注２)	四半期連結損益計算書計上額(注３)
	宝飾	計				
売上高						
外部顧客への売上高	868,246	17,118,247	664,918	17,783,166	―	17,783,166
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	96,108	14,758	110,867	△110,867	―
計	868,246	17,214,356	679,677	17,894,034	△110,867	17,783,166
セグメント利益又は損失(△)	27,076	378,473	△9,670	368,803	△54,438	314,364

(注) １ その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである金融事業及びその他事業等を含んでおります。

２ セグメント利益の調整額△54,438千円には、セグメント間取引消去1,285千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△57,905千円及び棚卸資産の調整額2,181千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３ セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	美容	スポーツ	ＤＳＭ	和装	卸売	宝飾	その他	全社・消去	合計
減損損失	―	―	―	741	―	―	―	―	741

Ⅱ 当第３四半期連結累計期間(自 平成24年４月１日 至 平成24年12月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	美容	スポーツ	ＤＳＭ	和装	卸売
売上高					
外部顧客への売上高	2,165,696	3,194,703	2,589,912	2,244,845	5,710,730
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	91,465
計	2,165,696	3,194,703	2,589,912	2,244,845	5,802,195
セグメント利益又は損失(△)	139,603	57,304	101,636	92,898	53,230

	報告セグメント		その他(注１)	合計	調整額(注２)	四半期連結損益計算書計上額(注３)
	宝飾	計				
売上高						
外部顧客への売上高	895,723	16,801,611	492,357	17,293,968	―	17,293,968
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	91,465	20,036	111,502	△111,502	―
計	895,723	16,893,077	512,393	17,405,470	△111,502	17,293,968
セグメント利益又は損失(△)	1,139	445,814	△23,609	422,205	△54,890	367,314

(注) １ その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである金融事業及びその他事業等を含んでおります。

２ セグメント利益の調整額△54,890千円には、セグメント間取引消去428千円、のれんの償却額△14,600千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△41,966円及び棚卸資産の調整額1,247千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３ セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	美容	スポーツ	ＤＳＭ	和装	卸売	宝飾	その他	全社・消去	合計
減損損失	1,881	―	―	183	―	―	―	6,018	8,083

(のれんの金額の重要な変動)

「美容事業」セグメントおいて、当社が株式会社マイスタイルの株式を追加取得したことにより、のれんの金額に重要な変動が生じております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、219,000千円であります。

３．報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

平成24年６月28日開催の定時株主総会決議により、平成24年８月１日付で会社法第447条第１項及び第448条第１項の規定に基づき、資本金及び資本準備金を減少させ、その他資本剰余金に振替えた後、同日付で会社法第452条の規定に基づき、その他資本剰余金を減少し、繰越利益剰余金に振替え、欠損填補を行っております。この結果、資本金が1,347,356千円、資本準備金が561,020千円減少し、当第３四半期会計期間末において資本金が255,565千円、資本準備金が155,565千円となっております。